

【雲仙市】
校務 DX 計画

■GIGA 第 1 期の総括と課題の解決策

・校務支援システムが閉域環境での利用が前提となっていることもあり、クラウド環境を活用した校務改善の進捗はあまり進んでいない状況である。

・特に下記項目について課題が残るため、課題と解決策を下記の通り計画する。

KPI	目標値（目標年度）
課題と解決策	
教員と保護者間の連絡のデジタル化	
児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受付、学校内で集計している学校の率	100% (R8)
<p>・現在、一部 Google フォームを利用した欠席連絡を受けている学校があるが、多くの学校では電話で生徒の欠席連絡を受けている。保護者連携機能があるシステムを導入し、クラウドサービスから欠席連絡を受け、学内の管理情報に反映される環境を整備する。</p>	
教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化	
児童生徒への調査・アンケート等にクラウドサービスを用いている学校の率	100% (R8)
<p>・現在、教育委員会からの依頼や学校独自のアンケート調査を紙で運用しているため、実施および集計報告業務に多大な稼働がかかっている。児童生徒に配布している Google アカウントを活用し Google フォームを用いてアンケート実施することで、稼働の削減をめざす。</p>	
学校内の連絡のデジタル化	
職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化している学校の率	100% (R8)
<p>・現在、教職員に Google アカウントを配布しており、学習指導の資料など GoogleDrive で共有するなど活用が進んでいる。校務用の資料についても校務支援システムを利用し、ほとんどの学校が連絡掲示板等で文書のペーパーレス化をしており、今後もデジタル化の徹底を推進していく。</p>	

■校務 DX の推進に向けて

・「教育 DX に係る当面の KPI」に定められる各項目について、課題と解決策を下記の通り計画する。

KPI	目標値（目標年度）
課題と解決策	
FAX でのやり取り・押印を原則廃止した学校の率	100% (R7)
<p>・現在、学校から教育委員会への提出物において FAX での送付を行っているものがある。校務支援システムにより教育委員会から学校への資料送付および、学校から教育委員会への資料提出を電子データで行えるため、データでの提出を徹底する。</p> <p>・紙の出勤簿など押印が必要となっている書類を調査し、押印の廃止を徹底する。</p>	
校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃した学校の率	100% (R8)
<p>・現在、教育委員会から学校へ電子データで提供した名簿情報は各学校においてシステムに取り込むこ</p>	

とができている。また、市内や県整備の校務支援システム利用自治体との転校・進学時の引継ぎデータについては連携が来ている。それ以外については前籍校から紙で提供されるため手入力の必要があるため、手間も多く誤入力の危険性がある。導入済の校務支援システムに取り込み可能な CSV 形式で名簿情報を提供してもらうことにより、電子データでの受け渡しおよび情報入力を可能にする。

クラウド環境を活用した校務 DX を積極的に推進している学校の率

100% (R10)

- ・児童生徒の欠席・遅刻連絡のデジタル化や、校務のロケーションフリー化による、教職員の負担軽減を実現するために利便性の高いクラウドサービスを導入する。
- ・現状はオンプレミスで利用しているシステムが多いが、クラウドサービスを安全な環境で活用できるようゼロトラストの考えに基づいたセキュリティ環境を構築する。
- ・ゼロトラスト環境下で、教職員が使用する校務系端末と学習系端末の一台化を実現しさらなる利便性向上をめざす。